

波田地区地域資源保全活動組織（松本市）

・組織の活動面積 A= 40.86 ha	組織形態	共同活動 ■	中山間直接支払 □	向上活動 □
・組織の構成員数 約 100 人	取組開始年度	平成19年～	—	—

構成員	農家、10区町づくり協議会、波田堰の水辺を活かそう会、公益財団法人自然農法国際研究開発センター、東筑摩郡波田堰土地改良区
-----	--

組織の概要

当組織は、平成19年度から始まった農地・水・環境保全向上対策事業で組織化され、河岸段丘の波田地区の中段に位置する波田堰を軸として、作業・イベント等を通じ、流れる水は農業用水というだけではなく、地域用水としての大切さを広く知ってもらいながら、水路等の保全活動を始めとして、景観形成、水辺空間や自然環境の保全等に取り組んでいる。

みんなで守ろう水辺環境

イベント「波田せぎ探検とますつかみ」 “水辺で遊ぼう！”

地域の皆さんに、水の大切さや波田堰の水はどこから取水しているかというお話や環境美化のために水路の中のゴミ拾いをしました。きれいになった水路で、放流したますやイワナを捕まえて楽しそうでした。



こんなに枯れ木や空き缶のゴミがありました。

みんなで一斉にゴミ拾いの開始です。

楽しみにしていた魚つかみの時間です。きれいになった水路の中でさて何匹捕まえられるかな！



土地改良区と、住民でつくる「波田堰の水辺を活かそう会」が主催し、親子連れなど約100人がごみ拾いやますのつかみ捕りをした。参加者は、水がせき止められて水位が下がった水路に入り、親水公園周辺の約500mを往復しながらごみを拾った。水

路には空き缶や流木が散乱している一方、イモリやカエルも生息しており、子供たちは水辺の生き物に親しみながら歩いていた。イベントは毎年開かれており、次男の渉君（6）波田小学校1年（6）を連れて参加した塩原日さん（45）は「普段あまり意識してこなかったけれど、大切な堰が身近にあることが実感できた」と話していた。（小岩井貴之）

9月3日
市民タイムス誌に掲載

社 間 加 相 康 夕 か ひ

水辺環境整備

開水路の草刈り作業



景観形成の為に！

つつじやアジサイを水路の周りに植栽。



水質を浄化するために！美味しいお米を作るために！



小学校4年生が、田んぼの水の取り入れ部分に、マコモタケを植えました。みんな手も足も泥だらけ。